

科目	成人看護概論				
時間数	1 単位 15 時間	授業方法	講義	授業時期	1 年
講師名	③毛利智恵美				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	『おとな』になることやその生活について学ぶことは、学生にとって、我が事としてとらえやすいテーマではないだろうか。ここでは、家庭や社会において中核的役割を果たす存在である成人の健康問題に対する看護アプローチの基本や、多様な健康レベルにある人に対する看護を学ぶことを通して、看護にとっての「健康」のとらえ方を考えて欲しい。そして、地域包括ケアシステムの中で、患者や家族が望む生活を実現するための看護の方向性を学んで欲しい。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達の視点から『おとな』になることと、現代社会での生活を理解する。 2. 成人の健康行動を促す看護アプローチの基本を学ぶ 3. 看護にとっての「健康」の考え方を学ぶ 4. 健康レベルに応じた看護を理解する 5. 地域包括ケアシステムと療養の場の移行に伴う看護 				
授業計画					
回	内容				
1	対象を生涯発達の視点から『おとな』になること(青年期～壮年・中年～向老期)を考える				
2	『おとな』の生活(仕事と働き方、家族)について、生活環境や社会状況から多面的に考える 成人を取り巻く環境 人口からわかること<少子超高齢社会>				
3	成人の健康の状況 生と死の動向 平均寿命と健康寿命 生活行動がもたらす健康問題と予防 成人病から生活習慣病へ				
4	健康生活を脅かす要因と看護 「健康」の定義 と 健康バランス				
5	成人の健康行動を促す看護アプローチの基本 おとなの学習と健康行動の変容 学習者である患者への看護技術 エンパワメントエジュケーション と 自己効力 「ストレスコーピング」と SOC 患者と看護師の人間関係・チームアプローチ				
6	健康レベルに応じた看護 ヘルスプロモーションと看護 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 慢性病との共存を支える看護 —病みの軌跡の理解— 人生の最期のときを支える看護 —死への軌跡と死の判定、死の準備教育—				
7	治療過程にある患者への看護技術 症状マネジメントの看護技術 —症状体験を傾聴する— 看護実践における倫理的判断と意思決定支援				
8	生活と健康を守りはぐくむ保健医療福祉システムと連携 地域包括ケアシステムと療養の場の移行に伴う看護				
評価方法	その時間数の 3 分の 2 以上の出席者に限り受験資格を与える。 学科終講時に行う筆記試験及び平素の学習・課題の提出状況を総合して評価する 60 点以上を及第点とする。				
教科書	成人看護学(1)成人看護学総論:医学書院				